

# 現地説明会資料

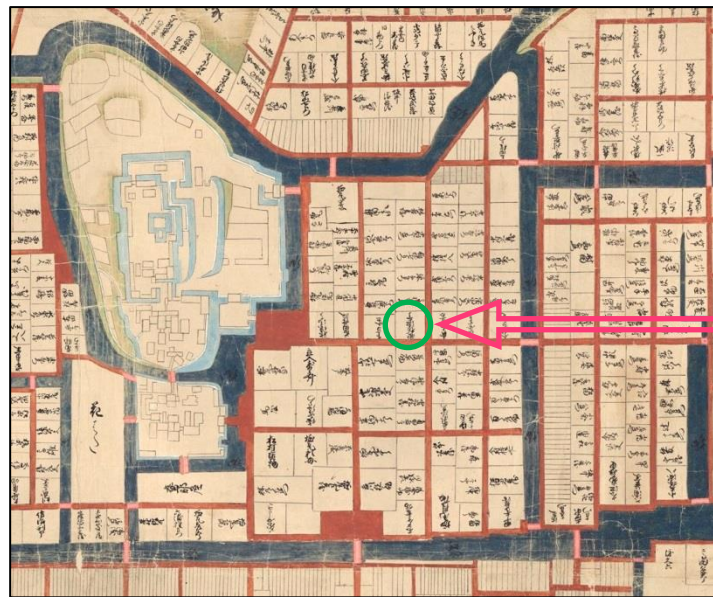
平成27年5月30日(土)  
松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課  
公益財団法人松江市スポーツ振興財団

## 1. はじめに

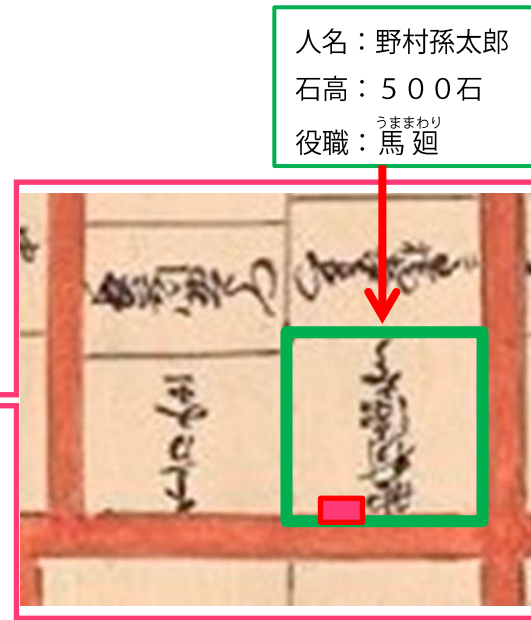
本調査地は、松江市母衣町43-2番地外に所在し、城山北公園線(通称大手前通り)の道路拡幅工事に伴う松江城下町遺跡(母衣町43-2外)の発掘調査です。

この場所は、松江城本丸から直線距離で南東へ約450m地点、江戸時代には上級家臣の屋敷地となっていた母衣町の一角にあたります。

## 2. 松江城下町絵図から見る調査地



堀尾期松江城下町絵図(島根大学附属図書館蔵)



拡大図 \*緑枠線が調査該当屋敷地  
赤枠線が今回調査箇所

人名：野村孫太郎  
石高：500石  
役職：馬廻

## 3. 発掘調査の成果

発見された『長屋門跡』の石垣は、見つかった地層から17世紀前半頃のものと考えています。松江城の石垣と比較すると規模は小さいのですが、石材では大海崎石(安山岩)を利用するなど共通する点もあります。また、割石と自然石をバランス良く利用している点など積み方にも共通点が見られました。

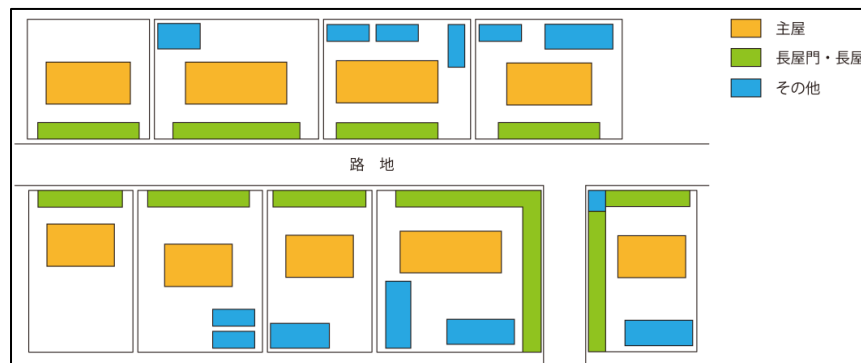
### 『長屋門』とは？

屋敷の周囲に家臣(使用人)を住ませる長屋を建て、その建物に扉をつけて門としたものです。石高や階層によってその形式が定められていました。

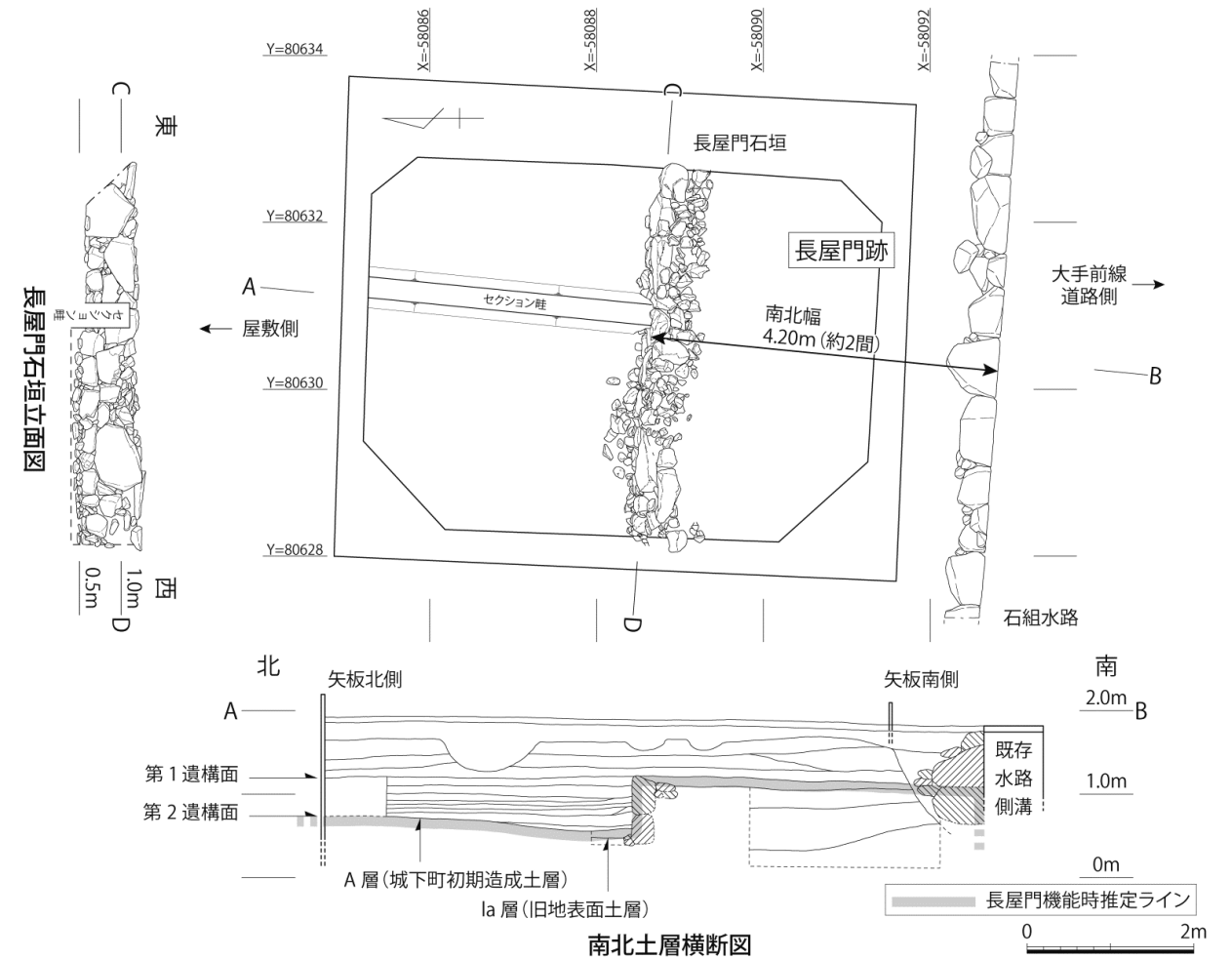
### 城下町の町割り(右図参照)

武家屋敷の主屋は敷地の中ほどに設けられていました。

街路(路地)に面しては、長屋門などの表門や土塀が建ち、側面や裏手は土塀や板塀などで区画されていました。



城下町の町割り模式図



検出した長屋門跡の石垣(北から撮影)

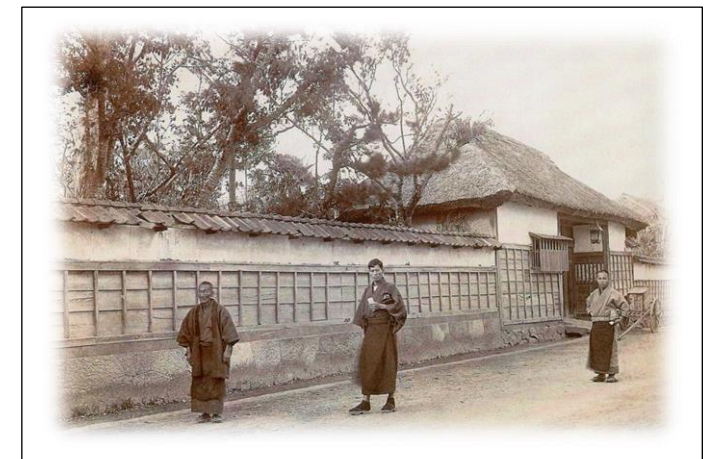
### 長屋門跡の石垣

今回検出した長屋門の石垣は屋敷側に面しています。これと対となる道路側には、石組水路の石垣(下段)を長屋門の土台として兼用していることが想定されます。

東西の規模は不明ですが、南北の奥行は4.20m(約2間)を測り、石垣の主軸は座標方位東から4度ほど南を向いています。石材鑑定から長屋門の石垣には、安山岩・玄武岩・流紋岩の3種類を使用していることが判明しました。



参考写真①：赤穂藩大石邸長屋門(兵庫県赤穂市上仮屋)



参考写真②：南田町の武家屋敷長屋門(大正時代撮影)